

自律回復に入った10月の熊本県経済

～ 推計県内GDP指標⇒熊本地方経済インデックス「KI」～

平成25年12月27日
公益財団法人 地方経済総合研究所

【はじめに】

当研究所は、県内の2ヶ月前までの景気動向を示す「熊本地方経済インデックス」(以下「KI」)を、昨年10月より公表しています。県民経済計算の基準改定に伴い、本年度より「KI」の算出に使用する経済指標を変更し、本数も県内8から10指標へ、全国14から19指標へ増やしました。

これによって県内26業種毎の生産動向について、より精度の高い景気の水準と方向性を知ることができるようになりました。

なお「KI」は、リーマンショックが発生した2008年9月の水準を100としています。

1. 2013年10月「KI」101.9 ポイント

10月の「KI」は101.9p(前月比0.3)と4月以降、リーマンショック時の水準を上回っている。

KIは前年比0.3pとほぼ横ばいだが、これまでとの違いは、本年4月以降好調な建設業や運輸通信業に加えて、10月からは食品製造業や卸小売業等に裾野が広がって来た点が注目され、県内経済は自立回復の軌道に入った可能性がある。

(図表1)

2. 経済指標

10月(以下同)の名目賃金(5人以上事業所)は234,299円(前年同月比1,394円)と前年を0.6%上回り、新規求人数は同17.8%増加した。

本年4月以降好調な公共工事(10月前年同月比37.6%)や住宅工事(同12.2%)などが、所得と雇用環境を改善させ始めている。

これを受けて大型小売店売上が同2.0%増加し、特に県内経済への影響が大きい食品製造業に動意(KI同11.5%)が認められ、これまでと違った動きが出てきた。

図表1 熊本地方経済インデックス「KI」



※ 県内外の経済指標を説明変数に、県内各業種の付加価値総生産を被説明変数とした重回帰分析。

<26業種> 被説明変数

1. 農業、2. 林業、3. 漁業、4. 鉱業、5. 食品、6. 繊維、7. パルプ・紙、8. 化学
9. 石油・石炭製品、10. 窯業・土石、11. 一次金属（鉄鋼）、12. 金属製品、13. 一般機械
14. 電気機械、15. 輸送用機械、16. 精密機械、17. その他製造業、18. 建設業
19. 民間電気・ガス・水道業、20. 卸・小売業、21. 金融・保険業、22. 不動産業
23. 運輸通信業、24. 民間サービス業（広告、リース、宿泊、飲食、クリーニング他）
25. 非営利サービス業（教育、医療・福祉、介護他）、26. 公務

<経済指標> 説明変数

1. 県内 10 指標
名目賃金、大型小売店売上、同飲食料品売上、公共工事請負額、大口電力使用量、
住居工事予定額、鉱工業生産指数、新規求人数、鉱工業在庫指数、建築工事請負額
2. 全国 19 指標
大型小売店売上、公共工事請負額、中小企業出荷指数、新築住宅着工床面積、鉱工業出荷
指数、対事業所サービス生産指数、実質機械受注指数、消費者態度指数、大口電力使用量、
常用雇用者数、日経商品指数、商業販売額、鉱工業在庫指数、有効求人倍率、完全失業率、
10年国債利回り、長短金利差、東証株価指数、鉱工業生産財在庫指数

以上